



田検小学校
 ヒストリア ～歴史秘話～
 第9号 (26.1.17)

1 子どもたちを迎え、送り、
 そして見守り続けてきた「正門」

多くの子どもたちを迎え、送り、見守り続けてきた
 田検小学校の正門です。昔を偲んでみましょう。

【現在の正門】



【昭和35年頃までの正門（下）と用務員室（右）】



この当時は、日本復帰後いち早く建設されたコンクリート校舎と、昔ながらのトタン葺き校舎、かや葺き校舎が混在して建っていたようです。

記録によれば、コンクリート校舎の「廊下」は、ひさし型になっており、ガラス窓はなかったらしいです。

2 「本校生活詩」という7行詩

昭和31年度の学校要覧の中に記述されていました。当時の子どもたちや教員が、生活の指針にしていたのでしょうか。教育にかける篤い思いの一端が伝わってくる詩です。

誠なき人生は空虚なり 吾が校に一人の偽（いつわ）る者なきまでに
 睦みなき人生は冷酷なり 吾が校に一人の争う者なきまでに
 磨きなき人生は暗黒なり 吾が校に一人の学ばざる者なきまでに
 健康なき人生は不幸なり 吾が校に一人の病める者なきまでに
 励みなき人生は墮落なり 吾が校に一人の怠（おこた）る者なきまでに
 楽しみなき人生は苦悩なり 吾が校に一人の苦しむ者なきまでに
 省（かえり）みなき人生は転落なり 吾が校に一人の省（かえり）みなき者なきまでに

【昭和55年頃の正門】<学校創立100周年当時>

